

1 教科の到達目標 (学習のねらい、身に付けたい力)

週3時間の希望制「習熟度別少人数クラス」を実施し、授業を行います。少人数を活かし、「数学の基礎学力の定着とよりきめ細かな指導」、「自分から進んで学習に打ち込む生徒の育成」を目指します。一人ひとりの生徒の実態に応じて、より細かな指導を行うことにより、全ての生徒が毎時間の授業で「分かった」という経験を実感して、学習効果とともに学習意欲の向上を図ります。また、通常の授業とは別に、放課後補充教室、夏季補充教室を通して、既習事項の確認、計算力の充実を図っていきます。知識・技能を身に付けると共に、自ら考え、判断・表現する力、さらに、それらを生かし、主体的に学習に取り組む態度を養っていくことも目標としていきます。年度当初は、昨年度の結果を参考に希望を出してもらいクラス編成を行います。単元終了ごとに、クラス変更の希望を受け付けます。

2 年間学習計画と単元の評価規準

学期	月	題材名・単元名	内 容	達成目標 (ねらい)
1	4	第1章 式の計算 1節 式の計算 (定期テスト) 2節 文字式の利用	◎同類項の意味と同類項をまとめる ◎式の加減法、多項式と数の乗除法 ◎単項式どうしの乗除法 ◎乗除の混じった単項式の計算 ◎文字を用いた式で、数量や数量の関係を表したり、説明したりする	・文字を用いた式に関するいろいろな用語の意味を理解し、正しく使える。 ・簡単な単項式、多項式での加法、減法、および、単項式どうしの乗法、除法の計算ができる。 ・目的に応じ簡単な等式を変形できる。
	5	第2章 連立方程式 1節 連立方程式 2節 連立方程式の利用 (定期テスト)	◎二元一次方程式とその解の意味 ◎加減法、代入法による連立方程式の解き方 ◎問題を解決するために、数量の関係をとらえ、見通しをもって連立方程式に表す ◎連立方程式を使って、問題を解決する	・連立二元一次方程式の必要性和意味とその解の意味を理解する。 ・連立二元一次方程式の解法を理解する ・問題解決の場面で連立二元一次方程式を活用することができる。
	6	第3章 一次関数 1節 一次関数 2節 一次関数と方程式 3節 一次関数の利用 (定期テスト)	◎一次関数の意味 ◎一次関数の値の変化、変化の割合の意味 ◎一次関数 $y=ax+b$ のグラフの意味 ◎傾きとグラフ上の1点の座標で式を求める ◎グラフ上の2点の座標から式を求める ◎方程式 $ax+by=c$ のグラフ ◎連立方程式の解とそのグラフの交点の座標との関係 ◎事象の中から一次関数を見だし、一次関数を用いて問題を解決する	・一次関数の意味を理解し、身の回りの事象の中から、一次関数とみられるものを見つけることができる。 ・一次関数の特徴を理解し、一次関数のグラフがかけられる。 ・直線が与えられているとき、その直線の式が求められる。 ・具体的な事象を一次関数とみなし、それを問題解決に利用できる。
	9	第4章 図形の調べ方 1節 平行線と角 2節 三角形の合同 3節 証明 (定期テスト)	◎対頂角の性質 ◎平行線と同位角の関係 ◎平行線と錯角の関係、三角形の内角の和 ◎合同な図形の性質、三角形の合同条件 ◎証明の意味と必要性、仮定と結論の意味 ◎合同条件を使って簡単な図形の性質を証明する	・対頂角の性質、平行線と角の関係について調べる。 ・三角形の内角の和について調べる。 ・三角形の合同条件を明らかにする。 ・合同条件を根拠にした証明の進め方や図形の性質の調べ方について理解する。
2	10	第5章 図形の性質と証明 1節 三角形 2節 四角形	◎二等辺三角形、正三角形、直角三角形の定義とその性質 ◎いろいろな四角形の定義とその性質、性質の証明 ◎平行線による等積変形 ◎等積変形を使った作図	・三角形の合同条件を使って、いろいろな三角形の性質を証明し、図形の性質の調べ方を理解する。 ・いろいろな四角形の性質や平行四辺形になる条件について理解する。 ・等積変形などについて理解する。
	11	第6章 箱ひげ図とデータの活用 1節 データの散らばり 2節 データの傾向と調査 (定期テスト)	◎箱ひげ図や四分位範囲の必要性和意味 ◎四分位数や四分位範囲の求め方、箱ひげ図のかき方 ◎箱ひげ図の読み取り	・箱ひげ図や四分位範囲などを用いて、データの傾向をいろいろな視点で考察する。 ・複数の箱ひげ図を比較して、データの傾向をいろいろな視点で考察する。
3	1			

	2	第7章 確率 1節 確率	◎統計的な確率について、その意味を考える ◎同様に確からしいの意味と確率の求め方 ◎簡単な場合について確率を求めること	・確率の必要性和意味を理解し、簡単な場合の確率を求めることができる。 ・確率を用いて不確定な事象をとらえ説明することができるようにする。
	3			
		総復習		

3 評価方法

評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技能	○言葉の意味を理解している。 ○定理・公式を理解し、計算ができる。 ○例題の解き方を理解し、計算ができる。 ○法則を理解し、利用した計算ができる。	・定期テスト ・単元テスト ・小テスト
思考・判断・表現	○既習の計算をもとにして、計算方法を考察し、説明することができる。 ○学習した事柄を具体的な場面で利用、説明することができる。 ○学習した事柄を相互に関連付けてみる可以尝试。	・定期テスト ・単元テスト ・ワークシート（ノート） ・テスト直しレポート ・単元レポート
主体的に学習に取り組む態度	○学習した事柄について、学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○学習した事柄を利用し、問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	・ワークシート（ノート） ・単元レポート ・テスト直しレポート

4 授業の取り組みについてのアドバイス

- ・積極的に自分の考えをみんなの前で発表していけるようにしましょう。失敗することを恐れずに、自分の考えを発表してください。
- ・授業ごとに内容理解の確認を行っていきます。細かな積み重ねをしていきましょう。毎時間の授業の復習をしっかりと行ってください。家庭学習では、問題集や教科書を使って復習してください。
- ・定期考査後に「問題集」や「テスト直しレポート」を提出してもらいます。間違えた箇所や分からなかった箇所は、丁寧に解き直し、理解するまで学習しましょう。
- ・質問はいつでも受け付けます。積極的に質問をし、疑問を解決してください。
- ・「学びの足跡」を記入することで、自分の学習を振り返り、分からなかったこと、もっと知りたいことを明確にしていきましょう。
- ・単元の最後に、単元のまとめレポートをノートや「学びの足跡」をもとに作成します。裏には、学習した事柄でもっと知りたいことや興味をもったこと等をまとめていきましょう。

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

- ・宿題は必ずやりましょう。その際、分からなかったところは、そのままにせず、次の日に先生に聞いてください。
- ・問題集を購入します。授業でも取り扱っていきますが、授業の進行に合わせて取り組んでください。また、期限を決めて提出を求めます。提出日に遅れないようにしましょう。
- ・復習を大切にしてください。授業が行われた日に必ず復習をしてください。問題集を利用するとよいでしょう。

6 定期テストの取り組みについてのアドバイス

- ・まず教科書、授業で配布されたプリントやノートを見直しましょう。
- ・問題集のできなかったところに付せん紙をつけ、テスト前までに分かるように繰り返し練習をしましょう。分からないところは、放課後補充教室や質問教室で聞いて、復習をしましょう。
- ・日々の努力が一番大切です。小さな積み重ねが大きな成果を生みます。

7 苦手な人の取り組みについてのアドバイス

- ・計算力を付けることが大切です。「問題集」や「教科書」を利用して、計算力をアップさせてください。できなかった問題、間違えた問題は、正しく繰り返し練習することが大切です。
- ・理解できないことがあれば、すぐに質問に来てください。
- ・多くの問題に取り組み、慣れることが必要です。